

講義内容

教育課程編成の研究と実践

Study and Practice of Curriculum 2単位

本授業の目的は、教育課程編成の意味、学習指導要領の歴史の変遷と特徴を概観し、実際の学校のカリキュラム編成の事例を考察するとともに、カリキュラムマネジメントの考え方を理解し、実務能力を身に付け、学校における教育課程編成の理論と実務を学習する。

具体的には、「教育課程編成の意味」「学習指導要領の歴史の変遷」「学習指導要領の構成」「学校でのカリキュラム編成」「個に応じた教育課程」「カリキュラムマネジメントの研究と実務」「教育課程の評価と改善」について授業を行う。理論と実践との往還を図るため、事例研究・シミュレーション・グループ討議等の授業形態を取り入れた受講者参加型の実践形式での授業を行う。

授業デザインの研究と実践

Study and Practice of Instruction Design 2単位

授業のシステム化と認知理論を踏まえた授業デザインの理論にのっとり、学習指導案の作成と検討を行う。具体的には、学習指導案をデザインするプロセスである、目標の明確化、課題分析、教材の研究、授業評価の工夫の各段階について、実際に指導案を検討しながら学習する。この授業を通して、授業の改善という視点に立った、評価に裏付けられた指導案を作成する技術を身に付けることができる。なお、このコースは実践も含み、ある程度の人数を必要とし、教え、教えられる関係も重要なので、ストレートマスターと現職教員がともに参加し、協力することが望ましい。

国語科・社会科指導の計画・実践・評価

Plans, Practices and Assessments of Japanese and Social Science 2単位

本授業の目的は、国語と社会のカリキュラムマネジメントの理論と実践能力を身に付け、学校(勤務校等)における国語・社会の指導計画作成の課題を分析し、改善方策を探究することにある。

この目的を達成するために、教科指導計画作成の理論と実務との往還を図り、事例研究・グループ協議等の授業形態を取り入れた受講者参加型の実践形式での授業を行う。

算数科・理科指導の計画・実践・評価

Plans, Practices and Assessments of Mathematics and Natural Science 2単位

本授業の目的は、算数と理科のカリキュラムマネジメントの理論と実践能力を身に付け、学校(勤務校等)における教科指導計画の課題を分析し、改善方策を探究することにある。

この目的を達成するために、複数の担当教員によって、教科指導計画作成の理論と実務との往還を図り、事例研究・グループ討議等の授業形態を取り入れた受講者参加型の実践形式での授業を行う。

生徒指導と特別活動の実践と課題

Practice and Task of Guidance and Field(Special Activities) 2単位

学校教育活動における生徒指導・特別活動の内容と方法について理解し、それぞれを有効に進める方策について考察する。生徒指導については、暴力行為やいじめ、不登校等の問題行動等の対応に加え、情報機器等の活用に関わる問題や危機管理能力、保護者や地域との円滑な連携など、教師の新たな実践力の向上が求められている。特別活動については、児童生徒の人間形成に大きく寄与

している教育領域であることは否めぬ事実であるが、前述のような児童生徒の問題行動等から、特別活動の意義や役割が十分に敷衍しているとは言えない状況も伺える。そこで本講義では、生徒指導の本質を理解した日常的な実践能力と問題行動等の対応能力や、特別活動及びキャリア教育の内容と方法を正しく理解した確実な指導力を高めるなど、児童生徒の社会的な自立を目指した指導の基本や改善の修得を図りたい。

教育相談と特別支援教育の実践と課題

Practice and Task of Guidance and Special Needs Education 2単位

学校には様々な支援の必要な子どもたちがいる。カウンセリングの基礎を学習するとともに、具体的な事例を提示し、事例の客観的把握、対応策の案などを討論形式も取り入れ学校における教育相談を実践的に研究する。また特に、LD・ADHD・自閉症スペクトラム障害などについて専門的に理解するとともに、特別支援教育対象児の理解の方法、詳細な課題把握の方法などを学ぶとともに、特別支援教育コーディネーターの役割を含め校内支援体制の構築と運営など、特別支援教育の推進充実を図るための実践的研究を行う。

学級経営の実践と課題

Practice and Task of Classroom Management 2単位

学級経営の目的・内容・方法を理論的に整理し、学級経営上必要な実務について、具体的な事例を通して理解する。現任校のクラスにおける学級経営案を実際に書く作業や、「子ども理解」の方策についても実習する。また、給食指導や環境整備、係り活動などについても現状の方法が本当に効果的なのかを検討し、よりよい実践をつくるための事例を検討する。子どものトラブルや保護者との連携など、学校現場で発生することが多い諸問題についても、具体的な対応を演習を通して検討する。

学校経営の研究と実践

Study and Practice of School Management 2単位

本授業の目的は、今日の教育改革の基本的な動向を踏まえて、教育行政や学校の役割を理解するとともに、多様な立場（指導主事、中堅教員、管理職等）から学校組織の見直し・教職員の人材育成・危機管理対応に関する方策を考察し、学校組織マネジメント能力の向上を図ることである。この目的を達成するために、複数の教員によって、学校経営の研究と実践を図るため、事例を取り上げたり指導資料や構造図等を作成したりする事例研究・ワークショップ・シミュレーション・ロールプレイング等の授業形態を取り入れる。

学校の社会的役割と教員の服務

Social Role of Schools and Teachers Task 2単位

今日の社会的特質を踏まえて、その中における学校教育の役割を考え、これから求められる学校や教師の課題を明らかにする。特に現代社会の特質を「知識基盤社会」、「ネットワーク社会」、「高度情報化社会」、「テーマ・コミュニティ」、「共生と共創の社会」などと特徴づけて、そうした現代社会における学校教育の課題について、事例をもとにして、多面的に考察をし、教育的課題の改善策や学校の社会的役割について考究する。キーワードを軸とした、事例研究・グループ討議など、多彩な授業形態を採用する。

上記の社会的役割を担う教員の服務の在り方等について、法令や事例等に基づく理解を深めるとともに、諸計画の立案・実践や他の教員に対する適切な指導・助言など、各学校の中心的な立場・役割で活躍できる力量を獲得する。

教員の在り方と資質の向上

Teachers' Ideal and Faculty Development 2単位

教職論の変遷を踏まえ、教員の在り方を多面的に考察する。専門職としての教師に求められる不易な能力と、流行の能力を考察する。また、教員に求められる専門性と自らの課題を教員評価の観点から明らかにするとともに、自己の資質能力の向上のためのキャリアプランの作成を図る。その具体的学習としてコミュニケーションスキルの向上を具体的な場面を想定するなかで図る。討議・発表・ロールプレイ等を活用した授業形態をとり、受講生の授業への積極的参加を求める。

公教育と学校組織

Public Education and School Organization 2単位

「公の性質を有する教育」(公教育)とは何かを考え、その体系としての公教育システムの在り方を探求する。新公共経営論(New Public Management)や新自由主義などが新しい社会原理の下に一定の支持と影響力を持ち始めた現代社会で、公教育の管理運営、特に行財政システムの転換、学校経営の新しい枠組み(パラダイム)転換などを具体的な教育場面を題材にして考察する。授業形態は、現状把握 → 歴史認識 → 理論的パラダイムの構築というように、科学的思考が深化するように進める。こうした歴史的、理論的な分析の上で、教育改革の現代的課題を理解するための講義や演習、事例調査を行う。その成果を元に、教育改革の成果の検証と課題を受講者が理解し、政策提言できるように政策形成の実践力を身に付ける。

学校評価と学校づくり

School Evaluation and School Development 2単位

近年の教育政策による学校環境の変化を分析し、現在及び将来の学校経営を実践するために必要な理論的能力と実践力の獲得を目指して事例研

究を行う。まず必要な教育行財政政策の基本的方向性を理解する。そのために為された法令改革等についての知識を整理する。次いで組織の特性を把握し、その強みと弱みを理解する。その上で改善に結びつけるための評価手法を獲得する。最後に自分が組織に寄与するための能力開発計画を作成する。

学校経営と教育行財政

School Management, Educational Administration and Financial 2単位

社会組織体としての学校の経営と教育行政が教員の職務とどのように関係しているかを知るとともに、どのような課題を抱えているのかを理解する。また、小・中学校の学校経営と教育行政がどのように関わるかを近年の教育改革や教育問題の事例を多様な資料と現職(実習)経験を活用しながら理解を深める。国や地方の教育政策と学校経営との関係についても、学校選択制・教員評価・地域連携等の具体例を取り上げ、講義・討議・発表といった方法を活用して受講者参加型の授業を行う。

教育法規の理論と実践

Theories and Practices of Educational Laws 2単位

教員、学校管理職、教育行政職等に必要となる学校教育に関わる教育法令を知り、解釈し、学校教育活動等の場面で必要な物の見方を検討する。

教育課程経営の理論と実践

Theories and Practices of Curriculum Management 2単位

カリキュラムマネジメントという枠組みを通して、学校・教育の実際、教職員等について理解を進めることを観点にしたい。具体的には、カリキュラムマネジメントの基本的な考え方、方法、校内研修、学校教育の主要な学習内容について論じることとする。さらに、これらのことを踏まえて、各学校の実践をみとめることとしたい。

教材開発と授業実践

Instructional Materials Development and Teaching Practice 2単位

教材開発と授業実践について、次の3つのテーマから考える。①授業システムを取り入れた教材開発。②IT機器を活用した教材開発。③現代的な教育課題に対応した教材開発。

①では、優れた教材の条件を吟味し、その指導方法を分析し、整理した上で、システム化していけば、日々の授業が安定し、教育効果が上がることを提示する。②では、IT機器と連携した教材開発について、事例を通して学ぶ。タッチパネル・インターネットなど、今後活用場面がさらに増えてくると思われる技術について、基本的な使用方法と活用技能を身につける。③では、全体のまとめとして、現代的な教育課題といわれる新しい教育内容や方法を検討し、教材開発と授業システムの両面からその指導法を学ぶ。

教科学習の研究と実践

Study and Practice in Subject Learning 2単位

授業の計画と改善のためには教材や学習者についての実証的なデータに基づく科学的、共同的な研究能力と態度の形成が要請される。そこで、本授業では、授業の科学研究に必要な知識と方法の獲得を主たる目標とする。そのため、教科学習の基本となる知識学習に関しては主として講義とグループ討議を通して学ぶが、さらに、授業の計画と実践と評価に関して必要な具体的なデータの収集と利用の仕方に関するワークショップ等を行い、模擬授業を行って、その評価検討をグループで討議するなど、全体として共同的な学習を行う。

心の教育と道徳教育

Mental Education and Moral Education 2単位

近年、義務教育の推進過程に強調されて来た「生きる力の養成」や「心の教育」、一体それらはなぜ求められてきたのか、一体それらはどのような

内容を指すのか、より具体的に考察し合いたい。そして、それらが「道徳教育」と深く関わっていることを理解したい。そして改めて、今日的な社会の中の児童生徒の発達状況を踏まえて、学校の教育活動における道徳教育の必要性を検討する。それに基づいて現状での道徳教育のありようを点検し、学校教育全面での道徳教育及び各学級での道徳の時間のより有効な展開計画を策定する。もって「心の教育」を重視する学校経営や学年・学級経営の実践を構築したい。

道徳授業の研究と実践

Study and Practice in Moral Education 2単位

「心の教育」が強調され、道徳教育の強化が求められる現在において、改めて学校教育における道徳教育、なかんずく「道徳の時間」の役割について考察し合いたい。人格の完成を支援する学校教育において「道徳の時間」の位置付けを理解し、道徳性の発達を促進し、道徳的実践力を育てる道徳授業の在り方について具体的に検討する。「学力」の重要な一つとして「道徳力」を捉え、その道徳力を有効に形成する道徳授業を実践的に構築し合いたい。

心の教育実践研究

Practical Study in Mental Education 2単位

本授業の目的は、今の時代に生きる児童生徒の心身の発達と成長という領域において、体験教育を通じた自己内面的な成長と人と関わる力（社会性・社会力）、心の教育と称される領域を探る。特に体験学習の理論・実践の理解を深め、授業は実際に体験中心のワークショップ形式で個人ワーク・グループワークを事例を交えながら行われる。児童生徒に限らず「人と学び」、「体験と学び」から変容・変化についての理解を深めながら、現在の教育界に求められている心を育むユニバーサルな教育デザイン、そしてその支援法について学びを深めることを目指す。

特別支援教育の現状と課題

Situation and Task of Special Needs Education 2単位

発達障害児等指導の難しい子どもたちの在籍する学級では、それぞれに応じた指導の困難さが整理されないままに、困難さだけが強調され、その子どもの教育ニーズに応じた指導が実施されていないケースが多い。そこで本授業では、協力校や特別支援学校等でのフィールドワークや受講者自身が抱えるケースをもとに具体的な課題を整理するとともに、後期中等教育卒業後の就労の実態など多角的な視点から特別支援教育を捉え直し、特別支援教育対象児への教育充実のための新たな方策を探る。

特別支援教育への対応と方法

Method and Reaction to Special Needs Education 2単位

特別支援教育の対象児に対する指導方法について、受講者自身が抱える指導の難しい子どもたちや協力校における児童をモデルとしてケーススタディを行い、対象児一人ひとりの理解と教育ニーズの把握から始め、保護者や外部機関との連携を視野に入れた新たな指導方法を、個別の教育支援計画や個別教育プログラム等も活用し考える。また、対象児として発達障害児以外にも支援の必要な児童がいることを理解し、その指導方法についても考える。さらに、対象児への指導は他のすべての児童にとっても理解のしやすい指導になることについても理解する。

特別支援教育と医療

Special Needs Education and Medical Support 2単位

特別支援教育は対象となる児童生徒一人ひとりの障害の状態等を正しく把握するところから始まる。本授業では、児童生徒の障害を正しく把握理解するための一つの視点として、LDや自閉症などの発達障害やその周辺領域である様々な障害さらにはてんかんなど小児精神科・小児神経科領域

の基礎的な医学知識を学ぶとともに、医療機関や学校などで実際の障害児に接しながら、学校教育に当たって配慮すべき点を医療の面から明らかにする。

脳科学と教育

Brain Science and Education 2単位

教育は高度に心理的な技能である。しかし一方で脳科学の観点からの情動的解釈では、脳における高度の学習過程を誘導する、高度のインタラクションとも言える。心理的な世界と脳の世界のあいだにはまだ溝があるが、最近の脳関連の諸科学はそれを埋める大きな進歩を遂げている。その成果は、多様な学習の場面での特性と、その障害により発生する現象の深い理解につながりつつある。本講義は、教育と学習にかかわる最近の脳科学の知見とその限界を紹介し、実際の教育現場における方法につなぐ努力について議論する。

理科教育の実践

Practice in Science Education 2単位

本授業の目的は、初等教育専攻のストレートマスター及び現職の教員の指導力向上を図ることである。今日的な課題をより明確に捉えるために小学校理科教育の指導要領の変遷を学ぶ。その上で、現在の指導要領で示されている目標や内容、子どもに育てたい資質能力等について体系的に学び、理科教師としての資質の向上を図る。

また、各学年の年間指導計画及び単元構成、学習指導案を作成し、実際に模擬授業を行い、観察・実験の基礎的な技能の習得を図るとともに、指導法の工夫と改善について学ぶ。

児童英語の実践

Practice in English for Children 2単位

主として小学生を対象にした英語教育の理念や活動内容を理解し、近隣の公立小学校において

実際に英語を教える実習を体験することで、小学校における英語教育指導に携わることを可能にする。外国語学習指導の背景的知識として、子どもの母語の獲得と第2言語習得過程を理論的に学習した後、英語の歌・ゲーム・フォニックス・絵本読みの仕方などの基礎的な指導技術を学び実践力を養う。また、こうしたアクティビティを取り入れた指導法や教材の研究・教案の立て方・模擬授業をグループで行いながら実習に備え、反省点を討論する。

授業技術の研究と実践

Study and Practice of Instructional Method 2単位

本授業では、教師の授業力の本質を解明し、授業力を向上させるための努力の方向を明らかにして、教室での授業が大きく変化することを目的としている。

すぐれた医師は、すぐれた医療技術と患者への適切な対応力を身に付けている。すぐれた教師はすぐれた教育技術と子どもへの適切な対応力を身に付けている。講義、演習、すぐれた授業者の実演等によって学んでいく。

コンピュータと教育

Computer and Education 2単位

ICTの活用は、児童生徒のモチベーションを高め、効果的な学習指導を行う上で大変有効である。しかし、実際の教育現場では情報機器及び通信環境の整備が十分ではない現実がある。本講義では、教育の情報化の全体像を整理した上で、ICTを有効に活用したこれまでの事例を整理して紹介し、「普通教室での現実的で効果的なICT活用」、「教師を支援する日常の校務処理や学校ホームページ」、「ICT教材の作成方法」に関して学び、実際の教育現場に即した情報化の考え方や進め方を理解し、学校改善に結びつけて検討する。

教育相談の理論と実践

Theories and Practices of School Counseling 2単位

本講義は、心理的不適応を示す子どもおよび保護者に、適切に教育相談をする能力の養成を目的としている。具体的には、第一に、子どもをより深く理解するために、教育相談の内容・方法、進め方などに関する諸理論を理解することを目指す。第二に、子どもの発達状態や諸問題について現在の状態を把握し、今後、どのように教育相談をしていくのか判断するための材料として必要となってくるアセスメントの方法（知能検査や発達診断検査・人格検査などの心理諸検査法や行動観察法など）を理解し、教育現場で用いることができるように実践を行う。第三に、学内・学外組織の連携の仕方、相談体制の確立の方法、学校運営連絡協議会の在り方、事例などを検討する。

学校カウンセリングの技法

Methods for School Counseling 2単位

現在、学校では「いじめ」、不登校、薬物乱用、リストカット、摂食障害など子どもの生命・健康に関わる多様な問題に直面している。本講義では、学校教育現場で心理的に不適応を起し、悩み苦しんでいる子どもの諸問題について、共に考え、傾聴できるようになるための「学校カウンセリングの技法」の習得を目指す。具体的には、第一に、カウンセリングマインドを踏まえた「関わり技法」を習得できるようにする。第二に、カウンセリングを進める上で必要となってくる面接の段階的構成や一般化のあり方について理解する。第三に、他の機関と連携するかどうか判断するための材料として必要となってくる診断マニュアル（DSM-5やICD-10など）の利用法を習得する。本講義は、カウンセリングの実際（事例検討を含む）や連携の在り方を学ぶものとなる。

発達障害への対応と方法

Method and Reaction to Developmental Disorders 2単位

広義の発達障害に対する専門的知識を深めるとともに、それぞれの障害特性に応じた教育・指導法を立案・実践できるようになることを目指す。健常児のコミュニケーション能力（音韻、語彙、意味、統語、語用論など）の発達を踏まえた上で、コミュニケーション障害（表出性言語障害、受容-表出混合性言語障害、音韻障害など）、学習障害（ディスレキシア、ディスカルキュアなど）、運動能力障害（発達性協調運動障害）、自閉症スペクトラム障害、注意欠如・多動性障害（混合、不注意優勢、多動性-衝動性優位など）等に焦点を当て、支援教育対象児の理解の方法、詳細な課題把握の方法などを学ぶ。

児童英語の研究と方法

Study and Method in English for Children 2単位

児童英語の研究方法を、①TV番組などのマスメディアの利用、②絵本の読み聞かせの実施、③市販されている英語教材の使用、という3つの方法にしぼり、保育園や幼稚園で子どもたちが実際に使用している様子を観察・ビデオカメラ撮影などを通してデータを収集し、英語を習得する過程を分析する。さらに、この3つの方法を通して、①TV番組などを使ってアウトプットに導くにはどのような提示方法、内容が必要か、②絵本の読み聞かせを通して発話力を高めるには、どのような教師の話しかけが必要か、③市販されている英語教材を使って子どもの発話力や教師・保護者とのインタラクションを育成するにはどのような使用方法、内容が必要か、という3つのテーマにしぼり、教授法や内容の分析を行う。さらに小学校を訪問し、上記の児童英語習得方法が小学生にも応用可能かどうかを検証する。

生徒指導の理論と実践

Theories and Practices of Student Guidance 2単位

児童生徒のいじめ、暴力行為等の問題行動、不登校、保護者対応、危機管理など、学校教育にかかわる生徒指導上の課題は山積している。学校には、これらの課題について適切に対応、対処することが、求められている。生徒指導の基本的な理論（目的、意義、役割、原理、児童生徒理解、相談、教育課程との関連など）を学ぶとともに事例を通して実践的な解決方法を探る。

講義、事例研究討議、ロールプレイ、感受性訓練などを行い、SM及び現職学生の生徒指導能力の向上を図る。

学校課題研究

School Task Study 3単位

これまでの経験を通して意識している教育課題を明らかにしたり、「基本科目」や「発展科目」の学習から新たに課題を発見したりして、その課題解決を計画的に進める。長期的な「学校における実習」においても、その課題追究の機会とする。

大学院担当教員の個別的指導も継続的に受け、理論的・実証的に課題解決を図り、その成果を報告書として修了時に作成する。

教職専門実習 A

Special Practice for Teacher A 10単位

公立小学校で、長期的な現場実習を行う。大学院における学習と有機的に関連づけながら、教職に専門的に求められる5領域（①教育課程の編成・実施、②教科等の実践的な指導方法、③生徒指導・教育相談、④学級経営・学校経営、⑤学校教育と教員のあり方）の内容について、基本的な実習を行う。

その実習を通して教師としての基本的な指導力を習得するとともに、学校教育における課題の発見・解決の能力も高める。そのため、実習に当たっ

ては事前指導・現場実習・実習研究・事後指導を有効に位置づけ展開する。

公立小学校及び異校種学校で、長期的な現場実習を行う。大学院における学習と有機的に関連づけながら、教職に専門的に求められる5領域（①教育課程の編成・実施、②教科等の実践的な指導方法、③生徒指導・教育相談、④学級経営・学校経営、⑤学校教育と教員のあり方）の内容について、総合的・発展的な実習を行う。

その実習を通して教師としての実践的な力量を向上させるとともに、学校教育における課題の発見・解決の能力も高める。

教職専門実習 B

Special Practice for Teacher B 2単位

教職大学院における学習と有機的に関連付けながら、教職に求められる5領域（①教育課程の編成及び実施、②教科等の実践的な指導方法、③生徒指導及び教育相談、④学級経営及び学校経営、⑤学校教育と教員の在り方）の内容について、実習を行う。

本実習を通して、教員としての総合的な指導力を習得するとともに、今日の学校教育における課題の発見・解決の能力も高めるものとする。そのため、実習に当たっては事前指導・実習研究・事後指導を有効に位置づけ展開する。

学校実践研究

Study for Teaching Practices 2単位

学校実践研究は、教職専門実習Aの終了後、小学校で自己の問題・課題解決のために継続して研究・実習することを目的とした科目である。実習中に見つかった自己課題、解決を要すると考えられる教育課題に対して、その課題の背景・問題を整理し、課題解決のための方法を検討し、どのような実証授業や生徒指導等の介入（インターベンション）が効果的であるのかを実証していく。

学校実践インターンシップ

School Internship 2単位

学校実践インターンシップは、玉川学園低学年児童に対して1年間、特定の曜日・時間に訪問し、教員とのチームティーチングによる学習指導補助や放課後の補修学習等を行うことを目的としている。インターンシップとして参加することを通して、授業や生徒指導の方法、特に支援が必要な児童に対する対応法等をチームティーチングとして学ぶとともに、インターンシップの成果を振り返って学習・生徒指導の効果的なあり方を検討する。